

「全国都道府県の歌・市の歌」

曾根 雅俊

皆さんは、子供の頃どんな歌を聞いたり、習ったりしたでしょうか。テレビから聞こえてくる歌、学校の音楽の時間に習った歌、いろんな歌を歌ったでしょうが、多分小学校では、校歌を習い式典で必ず歌ったのではありませんか？国立音楽大学に校歌はないようですが、私自身小学校の6年間でいったい何回歌ったのでしょうか。また、中学高校6年間で合唱団に入っていたこともあり、他の生徒の何倍も歌っていました。

今回取り上げる『全国都道府県の歌・市の歌』は、校歌と同様に団体歌という括りの下に入ります。他には社歌などがその範疇になります。とはいっても県の歌、市の歌と言われて、自分の生まれ育った町の歌がすぐ出てくる人がどれだけいるでしょうか。周りの何人かに聞いてみたところ、すぐ出てきた1人は、かの長野県の出身者。もう1人は、歌詞を言ったら、歌った記憶があるという、たまたま楽譜があつたので歌ってみたら、「それだ」という事になった輪島出身の人でした。やはり都会の人より田舎(いい意味での)の出身の方が故郷に対する思い入れが大きいのでしょうか。さきほど、かの長野県出身者といったのはどういう意味なのかは、この本をお読みに

なればわかるので、あえて触れませんが。内田康夫の小説『信濃の国 殺人事件』をお読みになつた方は周知のことでしょうが。

さてこの本に戻ると、「刊行にあたって」という前書きにあるように、全国四七の都道府県、七八の市、東京二三区にアンケートを行い、その回答をもとに構成されたものです。アンケートの結果歌詞の提供、成立の経緯など、総数四一八の回答が得られました。このほかにも、制定していない、検討中などの回答もあつたようであり、ほぼ半分の自治体から回答が得られています。都道府県のうち大阪府、広島県、熊本県、大分県の五つから「制定していない」との回答があり、熊本県については、制定されていないが「熊本県民の歌」があり、実質的には県歌の役割を果たしているようです。制定されているところの中には、二つ、あるいは三つの歌を挙げたところもあつたそうです。市の歌の中には、制定が確認できても、提供されていない市があり、具体的に〇〇市の資料提供がなく残念だったと名前の挙がった市もあります。楽譜が提供された歌については、巻末にまとめて掲載されています。

この本の出版は二〇一二年です。から、アンケート調査にどのぐら

いの時間がかかったかわかりませんが、少なくとも平成の大合併の後、新しくなつた市への調査であることは間違いないでしょう。新しい市となつたので、改めて制定の準備をしている自治体は、多分検討中という回答をしているのでしよう。資料提供のなかつた歌は何曲ぐらいあるのでしょうか。又合併により使われなくなつた歌はいったい何曲ぐらいあるのでしょうか。そんなお蔵入りの歌のことがとても気になります。

地方自治体の歌として制定された皆さんの曲、その中で日常的に歌われているのがどのくらいあるのか？私自身名古屋で生まれて、東京に出てきてこの本を見るまで愛知県の歌、名古屋市の歌を知りませんでした。私が知っている例では、群馬県の歌は服部良一の作曲で、「交響詩曲ぐんま」の中に取り入れられ、かつては毎年上演されてきました。今も群馬テレビの放送開始時と、終了時に流れているそうです。これら故郷の歌が、どれだけ地元に着しているのか、とても気になるそうです。

紹介する資料

◆中山裕一郎監修『全国都道府県の歌・市の歌』東京堂出版 2012 請求記号 ●J24-180

●そね まさとし 今年は、ヴェルディとワーグナーの生誕二百年。プリテンも生誕百年。久しぶりにプリテンの曲を練習しています。